

第4回 福島町安心生活創造事業推進及び地域福祉策定委員会 議事録

◇日時	平成22年1月18日(月)午後6時00分～午後7時30分		
◇場所	健康づくりセンター健康づくり研修室		
◇出席委員	委員(総) 小笠原 実 (他10名)		
◇説明員	町民課長 鳴海 清春 参 事 澤田 勝男 総括主査 工藤 泰	主 査 木村 正幸 主 査 星野 優司 委 員 福井 理央	社会福祉協議会 山田 正宏
◇ぎょうせい総合研究所	黒澤主任研究員		
◇欠席委員	委 員 4名		

開 会 (午後6時00分)

○町民課長(鳴海清春)

皆さん、お晩でございます。お忙しい所、お集まりいただきありがとうございます。策定委員会も本日で最後となりますので、よろしくご協力お願いいたします。開催にあたりまして、小笠原会長からご挨拶お願いいたします。

○委員長(小笠原 実)

それでは、改めましてお晩でございます。お忙しい中、集まっていたいただいて本当にありがとうございます。今日は4回目で最後ということで、出来上がったものを短い時間ですけども、見直ししながら良いかどうかを決めていきたいと思います。ご協議よろしくお願いいたします。

○町民課長(鳴海清春)

それでは、早速会議を進めたいと思います。資料は事前に配布していると思いますが、お手元がない方いらっしゃいましたら遠慮なく申し出て下さい。今日は進め方としまして、次第にありますとおり、前回の素案から最終の報告書に向けて、今時点ですと来週の月曜日に今日の会議を受けて、小笠原委員長から町長に答申をする予定になっております。それに当たっての最終のまとめということで、皆さんの了解を得た中で計画書(案)ということでまとめさせて

いただきたいと思います。1番目に、前回の素案から意見をいただいた中で修正した点につきまして、黒澤さんの方から変更一覧表が渡っていると思いますので、まず確認をしていただいて前回の皆さんの意見がきちんと計画に反映されているかどうかをご確認願います。それで2番目以降については、グループワークによる寄せ書き作成ということで、今回はかなり皆さんに熱心に議論していただきました。それで、できればその想いを計画書のどこかに掲載したいと思っております。それでは黒澤さんの方からお願いいたします。

○黒澤主任研究員

皆さんこんばんは、黒澤でございます。最後になりますが、今日は最後まで楽しく過ごしたいと思っております。お手元に、新旧対照表があると思います。その表の作りなのですが、左側の数字が今回配られた福島町地域福祉計画(案)のページになります。それから、新と書いてありますが変更・修正した後の計画・項目でして、旧と書いてあるのが変更・修正を行う前の計画・項目でして、変更の理由等についてその経緯を右側に記載してあります。簡単に説明させていただきます。3ページの福島町総合開発計画の中の福島町災害時要援護者支援プランが、福島町災害時要援護者避難支援プランという同時策定のプランの名称と調整しました。27ページも同様の所があります。次の11ペ

ージの基本方針なのですが、これは前回の資料では基本方針Ⅰが、みんなが元気なまちづくりとしておりましたけど、福島町ではひとり一人の元気づくりが町の元気につながるといような、大きな趣旨があります。そこで方針の趣旨に則ってより住民に浸透する標語として、みんなの元気が支えるまちづくりでどうだろうか、今回ご了承をいただければ変更させていただきたいと思います。それから15ページに、この計画書をどのように見ていくか分かりやすくするために、計画の見方を入れさせていただきました。前回までの策定委員会で出た、夜ウォーキングするときは交通事故防止のため、蛍光シールを貼ったり目立つ服を着る。を、わたしたちの提案へ追記させていただきました。17ページのふれあい教室につきましては、前回の資料でいきいき教室となっていたため、語句修正いたしました。次に19ページなのですが、議会からの要望等が、傾聴ボランティアを育てるということを入れたらどうかとありましたので、傾聴ボランティアとして様々な立場の人の話を親身になって聞くという項目を住民が行なうことに、入れさせてもらいました。そのあと二つは、前回策定委員会で出た指摘を追記させていただきましたので内容を確認してください。それから、21ページの“おしゃべりハウス”（仮称）に協力するとありましたけど、町内の管理職会議での検討による指摘で、“おしゃべりハウス（仮称）への参加、開設・運営を支援する。と、より具体的に記述することにしました。そのあとの5項目につきましては、前回の策定委員会によるものです。例えば、21ページでしたら水道検針員や郵便局員など書いていましたが、色々無理があるだろうと委員会内のご指摘を基に表現を変えました。それから民生委員・児童委員と町内会が連携し、身近なところで気軽に相談できるような人材を増やす。とありましたが、そこも委員会の指摘により修正しておりますので確認していただきたいと思いま

す。以下、パソコンのトラブルを解決する相談窓口を開設する。地区ごとの防災訓練を実施する。町内会単位の避難所マップを作成し配布する。これらの項目についても、前回の策定委員会による指摘を反映したものと記載しておりますので、内容の確認をお願いします。それから27ページ、安心カードについて委員さんからも資料をお持ちいただいて説明があったり、提案がありましたし、全体として全国でもこの項目を入れるという方向になっていますので、具体的にみえるように追記いたしました。それから28ページの貴重品の同一保管につきましても、前回策定委員会で指摘がありましたので、内容についてはホームページで掲載の内容なのですが、貴重品の同一保管には留意という言葉を追記しました。それから、30ページに圏域設定の項目を移しています。前回の資料では冒頭8ページに入れていましたが、圏域設定は計画全体に関わる項目であるということから、第4章の計画の推進に移動させた方が理解も流れもいだろうということで、移動させてもらいました。それから、前回の策定委員会で、いかす！おせっかいの3か条と載せてあったのですが、おせっかいという言葉が抵抗あると委員さんから多数のご指摘がありましたので、それに伴ってせわずきの3か条と記載いたしました。それからボランティア制度について記載がありますが、具体的なイメージをできるように32ページに“せわずき愛レージ”イメージ図を載せました。内容を見ていただいて誤解が無いかな等、確認していただきたいと思います。最後になりますが、34ページに、地域福祉の進み具合の評価機関として、策定委員会を明確に位置付けたということで、この計画の進捗状況は、毎年「福島町安心生活創造事業推進及び地域福祉計画策定委員会」が評価し、適切な提言を行うとともに結果を公表しますということで、この委員会が大変重要な責務を負うということが謳われました。非常に透明度の高い、発信力の

ある計画になったと思います。34ページのこの部分については、今後皆さんの協力があるというふうには、町民を代表して皆様方が評価・点検していただければという大きなものになりました。以上、新旧対照表で説明させていただきました。何か、ご異議があれば伺いたいです。

○委員長（小笠原 実）

新しく出てきた32ページの“せわずき愛レージ”と、本町に適したボランティアポイント制度を研究していくと、19ページに謳っていますが、その兼ね合いがはっきりしなくなるのでは、突然“せわずき愛レージ”が出てきても、混乱してしまうのではないかと思います。それと、11ページの図と文字の空間があるため一般の方が見た時に理解されにくい印象を受けるのではないのでしょうか。あと図の中にあります、点線内の詳しい説明は次ページでも詳しく説明しているので、必要無いというのが私の印象です。あと表紙のイラスト内に、せわずきのススメ！と書いてありますが、せわずきと書いてしまいますと、ボランティアというイメージが無くなってしまい、福島町の地域福祉計画がせわずきだけという印象になってしまうのではないのでしょうか。他の方の意見もあるかと思いますが、他の適した言葉の方がよろしいのではないかと思います、皆さんに検討していただきたいです。あと、19ページにせわずき・せわやき隊が本町においても結成されています。と書かれていますが確かなことなのでしょうか。これも、確認していただきたいです。

○町民課長（鳴海清春）

せわずき・せわやき隊ですが、以前〇〇委員からもあったように、設置されております。ただ自主的にせわやき隊での活動は少なく、各団体に任せているという状況です。

○委員

私たちの活動は、せわずき・せわやき隊として、ゆりっこ広場のお手伝いを毎週行っていま

す。

○町民課長（鳴海清春）

個々には活動していますが、連携しているのが今無いというのが実態でしょうかね。

○委員長（小笠原 実）

ボランティアとせわずきとの関係を検討していただきたいです。

○黒澤主任研究員

そうですね。一番大きな所だと思われま。ボランティアとせわずきの関係ということで、ご意見ありますでしょうか。ボランティアには目的別のボランティア、傾聴ボランティアや子育てボランティアなどがあり、ここで言っているせわずきは、多分地区ごとで支援が必要な人たちをなるべくその方たちの住まいで、出来るだけ長く生きていくためのお手伝いといった、そうゆうのがせわずきの中にあるのではと思われま。これまで言われているボランティアは目的別の一般的ボランティア、せわずきは、ご近所の中でのお手伝い支援をイメージしているのではないかと思います、どうでしょうか。その辺を皆さんに伺っていきたいです。

では、このことについて5分程各グループで話し合いをして、各グループの代表に発表していただきたいです。

（第1回策定委員会のグループ編成で協議を行う）

◆ボランティアとせわずきの区分について◆

●1班…19ページに記載してある“せわずき憲章”（仮称）のように、ボランティアとせわずきの区分をきっちり分けたらどうか。ボランティアが柱でその一環として、せわずきがあるというような格好がいいのではないか。

●3班…前回までの委員会で策定してきた、住民が行なうこと・町が行なうこと等、区分けをしてきた中で、この部分だけせわずき隊のように事業が具体的に出てくるのは違和感がある。逆

に前のページの中で、色々と意見が出てきて、最終的に、地域ごとの見守りをするという中に、例としてこういった活動もどうでしょうかという提示であれば違和感がないのではないかと。

せわずきとは、隣近所の面倒を見たり助けたりするのがせわずきで、ボランティアは、ボランティア組織の中で組織内の方々が町全体のことをやるのだと思う。あくまでも、せわずきは隣近所というイメージ。

●2班…正直、ボランティアとせわずきの区別は難しく、議論をもっと深めないともまとめられないのではないかと。

○黒澤主任研究員

本当に、難しい問題だと私も思います。

○委員

せわずきは、お互い隣近所が気にかけて助け合っただけという部分だと思います。ですから、ボランティアと言うのではなく、計画書からもボランティア組織名を消してしまっただけでしょうか。

○委員

この福祉計画の中で、せわずきが大きな柱になっているようなとらえ方もこの資料からできると思います。せわずきは、この中の一部と考えられるような書き方であればいいのではないのでしょうか。

○町民課長（鳴海清春）

事務局サイドの考えですが、皆さんの色々な意見を聞いていて、ボランティアが福島町の地域に言葉として馴染むのかというのがまず一番でして、そこまで大きく考えなくても隣近所のお世話をするのは、今までも福島町で自然に行なわれてきたことだろうと、それをこの計画の柱にできないだろうかとというのが発端でして、せわずきとボランティアを混ぜ合わせているのではなく、あくまでもボランティアまできちんとやる方はやっていただき、福島町の土地柄と

して大上段に構える人は意外と少ないのではないのでしょうか。ちょっと隣近所の世話をしてあげるとか面倒を見るというような、ちょっとしたことを行える体制を皆で作っていくというのを計画の中に盛り込みたいという思いで作らせていただきました。

○委員

吉岡地域懇談会時に、お年寄りの方が集まってくれましたが、ボランティアと発言した時にボランティア自体を理解してくれている方が少ないように見受けられました。ボランティアといえども大きな組織もありますし、受け取る側も大上段に受け取ってしまい、福島町の土地柄に言葉自体が馴染むのかという問題が出てくると思います。

○黒澤主任研究員

この計画を作る時に心配したのは、ボランティアという言葉は馴染み難いなのというのが元々ありまして、でも先行してボランティアをされている方もいらっしゃいますので、それを否定するわけでもありませんし、でもこれから進めるなら福島町だったら、せわずきという方がいいのでは、それが発展すればボランティアになっていくというのでは、というのがイメージでした。

では、時間も限られていますので、委員長よりご指摘があった点について、多数決も含め結論を出していきたいと思います。まず表紙のせわずきのスズメという言葉ですが、この言葉は確かに全体をイメージするような言葉でもありますし、削除しても良いと思いますが、削除する方向でよろしいのでしょうか。

○委員

削除した方が、誤解を招くこともなく良いのではないのでしょうか。

○委員長（小笠原 実）

せっかくこれから寄せ書きの作業するので、寄せ書きの中で適切な言葉を見つけていけばいいのではないのでしょうか。

○黒澤主任研究員

では、何か良い言葉があれば検討したいと思います。

次に、11ページ図の枠内文章が必要無いとのご意見についてはどうでしょうか。次ページにも同じ文章があり、繰り返されているので削除しても構わないでしょうか。

(多数の意見より、削除して良いとする。)

では、削除します。それから32ページの“せわずき愛レージ”の図は記載されていることによって全体をイメージしているように見受けられるというご指摘が、他のグループから出ていましたが、皆さんどうでしょうか。記載をする・記載をしない・記載の場所を変える等あると思いますが遠慮なくご意見をおっしゃって下さい。

(協議の結果、削除することとする。)

では、せわずきの3か条についてはこのままで異論は無いでしょうか。

(多数が特になしとの意見。)

では、今出た結論で進めさせていただきます。あと、ボランティアとせわずきの言葉遣いについては、もう一度私の方でチェックを入れて、分りにくい箇所については、変えさせていただきます。それから、19ページのボランティアの紹介文章は削除する方向もいいのではというご提案がありました。どうしましょうか。

(多数が、削除しないままで良いとの意見のため、削除せずそのまま記載する。)

では、次第3の(2)グループワークによる寄せ書きの作成に移りたいと思います。宿題で出させていただいていた、しあわせ愛ランドふくしまとはこんなイメージをそれぞれグループ内で紹介しながら、最後の締めとしてふさわしい寄せ書きをイメージして、しあわせ愛ランドの絵を作っていただけだと思います。

(第1回策定委員会のグループ編成で作成。完成品は計画書に掲載する予定)

○町民課長(鳴海清春)

それでは今日の会議は最後になりますが、今日の修正案をまとめて計画書を作りますので、37ページに載っている皆さんの名簿を見て、団体名等、間違いがないか確認をお願いいたします。

それで今後のスケジュールなのですが、このように集まるのは本日で年度内は最後だと思います。それで先程言いましたとおり、1月25日に小笠原委員長から町長へ答申という形の中で、計画書を提出することになります。2月1日には議会の経済福祉常任委員会で所管調査ということで、この計画について意見をいただくこととなります。それと、2月1日から26日の間でパブリックコメントということで、まちづくり基本条例が出来てから、町民の皆さんに意見をいただくことになっておりますので、広報や町のホームページに掲載して意見をいただきます。そして、3月11日からの議会の中で議決をいただいて最終的には町の計画になるかと思っています。この計画書自体を、各戸に配布するとなりますとページが厚いものですから、要訳した15ページくらいの概要版を作成して、4月の広報と一緒に配布することになりますので、ご了承いただきたいです。皆さんには、最終的にまとめた計画書を町の方から3月末には送付できると思いますので、よろしくお願いします。先程の計画書の中にもありましたとおり、計画を作った以上、これを実践していきたいという思いもありますので、この策定委員会については来年度も引き続き継続する形でお願いをしたいと思っています。来年は、こういった作業自体は無くなるかと思いますが、年に2回くらい集まっていたら、計画の進捗状況等についてご意見をいただきたいです。

次第4の安心生活創造事業についてですが、以前もお話しましたとおり、社協のヘルパーさんが一人世帯を調査で歩いております。それがまとまりましたら、色々と皆さんの所にお届け

できるかと思います。また、その事業の中で今月の20日から大体2カ月くらいかけて、介護サポート養成講座を、社協さんの方で地域福祉計画を支える人材確保という形の中でやっておりますので、是非受けていただきたいと思います。

それと、災害時要援護者避難支援プランについて、本当であれば本日資料を皆さんに渡して見ていただきたかったのですが、これにつきましては今月の27日に最後の会議を予定しておりますので、資料がまだ整っておりませんので、27日の会議後に皆さんに送付したいと思いますので、それにつきましては議論をしていただくということではなく、目を通していただいて、来年度の会議の時にでもご意見いただきたいと思っております。

約半年間、本当に内容の濃い検討をしていただきまして、比較的いい計画書にまとめ上がったと思います。また今までの会議の形式と違い、みんなで意見を出し合い、作り上げたという思いがあると思います。これからも引き続き皆様の協力を得ながらやっていきたいと思っておりますので、是非また参加していただいて、ご協力お願いいたします。本日はありがとうございました。

閉 会（午後7時30分）
